

## I 実践

### 1 研究主題

セルフエスティームを高め、自他の人権を尊重することのできる児童の育成

#### (1) 主題設定の理由

東日本大震災で本校は大きな被害を受け、昨年度は3分散型、今年度は2分散型でのスタートとなった。このような特殊な環境の中で、通常の教育活動が大きく制限され、全校児童が集まる機会も少なくなっている。そして、子ども同士の交流が希薄になってくると、相手の気持ちや立場を思いやる体験が不足し、「いじめ」などの深刻な問題が懸念される。

そこで、本校の重点目標である「すべての教育活動を通して、セルフエスティーム・自己肯定感の育成に努める」ことは、今こそ本校児童にとって最優先すべきものと考えた。セルフエスティームの低下は、集団不適応・不登校・引きこもり・いじめ・反社会的行動などさまざまな問題を引き起こす。セルフエスティームを育成するためには、人間関係の中で認められること、ほめられること、居場所があることが必要である。人々との関わりの中で、自分のよいところを知ることが自己肯定感につながり、さらには、他者のよいところにも目を向けられるようになる。自己や他者を肯定的に理解し、セルフエスティームを高めることは、人権尊重の心を育むための大切な基盤となる。したがって、全教育活動を通してセルフエスティームを高め、自他の人権を尊重できるようにするための取り組みが必要であると考え、本主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- ア 児童の実態を把握するための取り組み
- イ 学級における指導の実際
- ウ 全校での取り組み

### 2 実践内容

#### (1) 児童の実態を把握するための取り組み

##### ア 毎月の生活アンケートの実施

本校では、いじめや学校生活への不安、対人関係のトラブルを解決するために、毎月「生活アンケート」を実施している。問題があれば、学年・生徒指導主事へとつなぎ、組織で対応することで、早期発見・早期解決を図っている。

##### イ Q-Uテストの実施

高学年ではQ-Uテストを定期的実施し、学級の人間関係の向上に役立てている。

#### (2) 学級における指導の実際

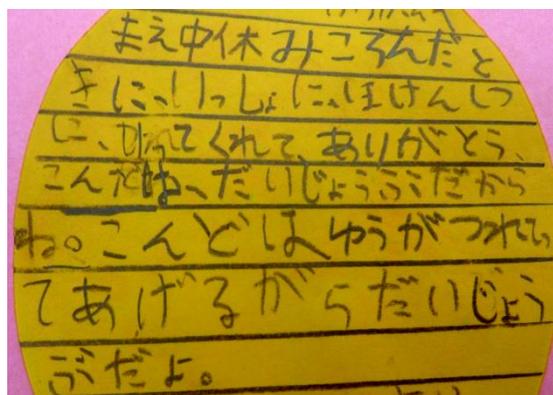
##### ア 心の居場所づくりのための学級活動

「ひみつの友だち」では、自分の知っている自分、自分の知らない自分、友だちから見た自分のよいところを発見し、自己理解・他者理解や絆づくりにつながる活動を実施した。自分の手形を背中に貼り、友だちに自分のよいところを書いてもらった。



## イ 道徳でのセルフエスティームの育成

「きつねとぶどう」を題材に授業を行い、後半に感謝の気持ちを伝える活動として、「ありがとうの花」を作成した。学級の全児童が、家族や友だちなどさまざまな相手に感謝の気持ちを伝えることができた。人はだれも多くの人に支えられて生きていると実感する体験は、人権教育の基盤となる。



### (3) 全校での取り組み

#### ア 人権メッセージの実施

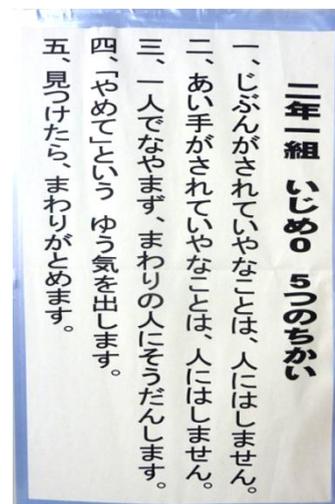
「人権メッセージ」は、児童が人権について考えるきっかけとなる有効な方法である。自分なりの考えや思いを自分のことばで表現することで、人権意識が高まっていくと考える。

#### イ 「いじめ0集会」

毎年実施している児童集会である。学級ごとにみんなで話し合っって決めた「いじめ0のちかい」を発表する。

#### ウ 各種たよりの発行

「いずみ」(学校だより)や「はまぎく」(生徒指導だより)を通して、保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせ、理解啓発を図った。



## 3 成果

- (1) アンケートやQ-Uテストで、学級の実態や個別に配慮を要する児童を把握することができ、具体的な対応が試みやすくなった。
- (2) 学級活動や道徳教育など学級を中心とした指導が充実してきた。人権尊重や人権意識につながるSSTや、道徳コーナーを生かした教室環境作りなどに工夫が見られた。学級に居場所があり、教師や友だちに認められることで、セルフエスティームを高めることができた。
- (3) 人権メッセージでは、人権について考えるよい機会となった。人権コーナーに掲示することで、友だちの考えや思いを知り、自他の理解や尊重につながった。

## II 今後の課題

日頃の教師の何気ない一言が、児童一人一人のセルフエスティームや人権意識に大きく影響するといわれる。配慮を要する児童の実態や家庭環境が多様化する現在、私たち教師も、さまざまな人権課題があることをふまえて知識や理解を深めるため、さらに職員研修を充実させたいと思う。

## III 人権コーナー設置の様子

